

11月・12月のたより

2013. 12. 26発行 福島恭子・大森志穂

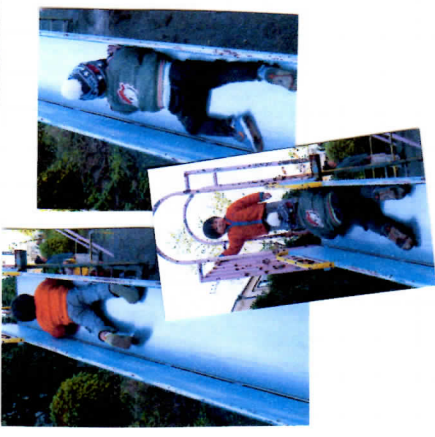
出会い様々

とんぼりころころに通い始めて、慣れてくると、友達とどっかがわっているのだらうか...。お母(父)さんは、そんなことも気に「おこるのではないでしょ」か。
子どもは、保育者との関係が充実し、歩くコースや公園等の場所にも慣れてくると、周りが見えるようになり、自分で、遊びたいこと、遊びたいものに向かって、少しずつ体を動かしていきます。

自ら動かいていった先に、自分以外の子どもがいれば、そこに「出会い」があります。出会いにも不義々ありまして、日々その連続。そして、出会ったところで生まれるのが、子ども同士のかわり。出合いは、ますます、出合いの頭の衝突と言えらるようなことも多く、子ども同士の出合いには、マナーもルールも一切関係なし。笑い、泣き、ぶっかかり、子どもは、その出合いの数々、様々を通して、他児の存在と知り、やがて、人として認識し、大事の存在、友達と「よっていくのだ」と私たちは考えられています。その上で、人とつき合っていくの「だ」と、必要はルールも生まれていくのだ」と思っています。

毎日の外遊びの際の目的地や歩くコースは、保育者が、その日のメンバー(人数、歩きの様子、興味等)や天気によっておおよそ見当をつけています。子どもが希望で決定します。曜日によりメンバーが決まっていますので、屋敷林に行くのは、水曜が金曜、その他は、たけのこ公園(歩くコースは、その時々で違っています)というように、11月末から12月は、定番のコースが定まっています。歩くコースや目的地に慣れ、子どもたちの動きが日ごとに変化するのには驚かれません。

出会いの様々 その1... 遊びとまねて、ゲラゲラ



すべり台を腹ばいになってすべっている子の手をみて、すべってみる。まねされた子は、「おや!」と思いき、子どもを見ながら、急いでまた腹ばいになってすべる。この繰り返して、楽しんで、楽しんでゲラゲラ笑っている。

出会いの様々 その3... 遊びに吸いこまれて



それぞれに自分の好きなことをして楽しんでいるか、泥んこを団んで、いい雰囲気。



公園の帰り道、エノコグサ(根こやし)を取って、埃のつぎ目を「掃除します」と言いながら歩く才見。「OOちゃんもする」と歳児見もまねて同じようにする。見ながら得意に「おこるから得意に」やり続け、こぼれくさりと掃除が続き、見つけて掃除が続き、見つけて掃除が...

出会いの様々 その4... 体当たりと接触

散歩の出発前、3歳児が2歳児を追いかけてはいる。どっからかうれしそう。そのうち、3歳児が体当たりする。それも大人で大喜びしているか、遂に2歳児が転んで泣き出す。3歳児は、しまった...という表情。保育者に促されて謝る。別の日、大人はまた、追いかけていたり、ぶっかかりたりして喜んでいる。



屋敷林の広場の傾斜では、傾斜を上っていく子、ゴロゴロ転がる子、4~5歳の子、自分の好きなように動かしている。時にぶっかかり合っても平気で大喜びしている。

年齢は、一人一人の成長によって、出会いの様子は違ってきています。出会いの様子は、一人一人の成長によって、出会いの様子は違ってきています。